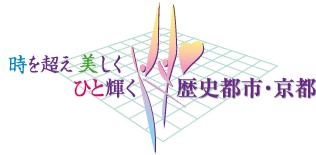


きょうと

京都市図書館情報誌



# 本のものがたり

関西から



## あなたの好奇心に応える

特集

vol. 16

平成19年10月発行

秋の旅行プラン  
図書館がお手伝いします!!

OPEN YOUR BOOK AT PAGE 4, PLEASE



本のもりの小さな音楽会（中央図書館）

目次

❷ ❸ インタビュー 「読書の素晴らしさ 一本と出会い、感動を味わう」  
京都市中央図書館 中西 進 館長

❹ ❺ 特集 秋の旅行プラン 図書館がお手伝いします !!

❻ お知らせ ますます便利に! 京都市図書館  
～コンピュータシステム リニューアル～

❼ 記念事業紹介 伏見中央図書館、醍醐中央図書館

❽ U.C.Libニュース 右京中央図書館(仮称) Q&A・その4  
❾ 利用者の声 旅と読書  
❿ 編集後記 本の世界を旅する

# 読書の素晴らしさ

— 本と出会い、感動を味わう —

京都市中央図書館

中西 進館長からのメッセージ



平成19年度から京都市中央図書館長に就任した  
中西進館長が、本の素晴らしさや、これから  
公共図書館のあり方などについて語りました。

## 私にとつての本

現在は、テレビやラジオをはじめ様々な  
伝達の媒体があり、その中に本も含まれま  
すが、本は他の媒体と比べると情報を無限  
に構築できます。テレビの映像を制作する  
ためには、風景などを撮影したり絵を描い  
たりする必要がありますが、本は言葉を使  
ってあらゆる映像を作り上げることが可能  
です。さらに受け手の側から見ると、テレ  
ビやラジオなら視聴者は順を追って情報を  
受け取つていきますが、本は時間を遡るこ  
とや立ち止まることができるのです。受け  
手が時間の操作や素材の選択などあらゆる  
ものを自由にでき、想像力を自由に働かす  
ことができます。つまり読書とは、文字媒  
体により無限に構築された情報を自由に選  
択して受け取るという行為であり、これは  
素晴らしいことだと思います。私自身、昔  
から本が大好きで随分たくさんの本を読ん  
できました。そして、こうした本と人とを  
結ぶパイプ役となる図書館司書は図書館の  
宝だと思います。

## 「文字離れ」「読書離れ」と 「書くこと離れ」

実は「書く」ことは「読む」行為でもあ  
ります。たとえば万葉集を筆で書いてみる  
と、ゆったりと流れる時間と静寂な行為が  
理解を助け、その内容をよく理解できるわ  
けです。ところが、現代はパソコンなどを  
使う機会が増え、書くことが少なくなつて  
います。書かなくなることで読む力は当然

落ちますので、「文字離れ」「読書離れ」よりも「書くこと離れ」がむしろ問題なのだと思います。

また、現代人には「便利だけが美德」という観念があるからだと思います。しかし「不便も美德」です。「憂鬱」という漢字はなかなか書けないのですが、書けないところに「憂鬱」の価値があります。

「書く」ことは非常に重要で、今の時代だからこそもう一度「書く」ことを見直すべきではないでしょうか。

## 高度情報社会における図書の役割・あり方

まず、図書が「情報」と言えるかということを考えると、情報という言葉で一般的にイメージされるのは即効性・有効性のあるもので、つまり情報とは伝達することを最高のメリットとするものです。一方で、読むという行為は読んだ内容が受け手の中で有機的にどんどん変化していくのですから、そういう意味では単なる情報伝達の手段として図書を考えることは非常に危険だと思います。

また、違う角度から図書のあり方を見る

と、電子記憶媒体に保存した図書を画面を開いて読む場合は、紙を読むのと同じことです。そして、たとえば百科事典であっても一つの記憶媒体に全て保存できますから、そうすると図書館のスペースの問題は一挙に解決すると思います。

## 公共図書館のあるべき姿

からの図書館には居住性が必要だと思います。来館された方には少しでも長くいていただきたいのです。そうすれば、読もうと思つておられた本以外の本をお読みになることもありますから。人間はサプリメントだけではなく、いろいろなものを食べて生活していますね。それが美味しいのと同じで読書も雑多なですから、ゆっくり楽しんでいただきたいですね。

## お薦めの本

あらゆる分野において時代を超えるものがあると思います。たとえば古典と呼ばれるものであつたり、名著と呼ばれるものであつたり。そんな本として私がお薦めするのは、学生時代に読んだ三木清さんの『人生論ノート』ですね。この本は哲学という、一般には難解と思われている学問をとてもやさしく書いてあるのです。感傷とは何かと聞かれて皆さんには返事に困ると思うのですが、その答えを「すべての情念の入口であると共にその出口である」と書いてあるのです。なるほどと思いましたし、未だに忘れないですね。

もう一つ挙げるなら和辻哲郎さんの『古寺巡礼』です。あんなにロマンチックな、センチメンタルな仏教への接し方はないでしょう。古寺・古仏に接すると誰でも感傷的になるんですね。亀井勝一郎さんの『大和古寺風物誌』も、とてもロマンチックな

文章ですね。これらは相変わらず読者を持ち続いている書物です。

## 利用者の皆様へ

皆様には「歩く読書」をしていただきたいですね。つまり、自分が読んだことを人に伝えていただきたい。そしてその人がまた次の人に伝えるのです。一つの読書がどんどん歩いていきますね。「こんな本を読んだ」「面白かった」でいいのです。読書

というものは自分が図書館で本を借り、読んで返して終わりではなく、たとえば母から子に、夫から妻に伝えるなど、各家庭が図書館の分館になつていただきたいのです。「歩く読書」をとおしたコミュニケー



(中) 三木清 『人生論ノート』  
(右) 和辻哲郎 『古寺巡礼』  
(左) 亀井勝一郎 『大和古寺風物誌』

木々が色づき、自然のコントラストが楽しめる季節になりました。  
この秋、みなさんは行楽や旅行に出かけられますか?  
今回は、「旅行」をキーワードに、  
図書館の使い方や調べ物の方法をご紹介します。

紀行や旅の本を  
さがす!

温泉について  
もっと詳しく調べる!

地形をもっと  
詳しく調べる!

地図や地形図をじっくり見ると、  
その土地の歴史や文化が分かるという著者。地図が苦手な人  
にもおすすめです。



▼旅への思いをふくらませる。



気軽に旅気分を味わえる雑誌や  
紀行文はいかがですか?

「紀行・案内記  
全情報」「自然と冒險の旅」「芸術と文学の旅」「歴史と民族の旅」

行きたい所が決まればガイドブックで  
旅に備えましょう。

▼計画をたてる。



▼地図を見て、行き方を調べる。

「全国温泉大辞典」「ふるさと体験  
ルート・ガイド」



▼その土地をもっと詳しく!

「日本地名事典」「難読・異誦地名事典」「日本地名よみかた辞典」「京都府方言辞典」



# 秋の旅行プラン 図書館がお手伝いします!!

## 図書館をうまく 活用しよう!!

- 「旅行」をテーマに図書館活用のワンポイントアドバイスをご紹介します。

### 1 ガイドブック

- 初めての場所へ行くときや、もっと詳しく知りたいときは、まずはガイドブックですね。他にも地理・地図・紀行の本があります。あわせてご覧ください!

### 2 雑誌

- 最新号以外は貸出できます。
- 旅行に関する雑誌は『旅』『旅の手帖』『月刊京都』『京都CF』『関西じゅらん』『関西ウォーカー』などがあります。
- お近くの図書館にない雑誌は他の図書館からお取り寄せできます。

### 3 レファレンスサービスを利用する

- 何の本を見てよいのか、わからずにおきらめいませんか?
- お気軽に職員にお尋ねください。
- 専門の職員がお調べします!

お出かけの際には、  
まず図書館にお立ち寄りください。

旅への思いをふくらませたり、  
旅のおともにお勧めの本を  
ご紹介します。

※レファレンスサービスとは、調査・研究に必要な本を紹介したり、本を探すお手伝いをするサービスです。



「古寺巡礼  
京都」  
新版1~13巻

淡交社から出版されているシリーズで、お寺ごとに分かれ、写真も多くわかりやすい内容になっています。サイズも持ち運びやすいので、お目当てのお寺に行かれるときにはぜひお持ちください。



# ますます便利に！京都市図書館

## ～コンピュータシステム リニューアル～

この秋、京都市図書館のコンピュータ  
システムが5年ぶりにリニューアル！  
新たな機能を搭載して  
ますます便利に！

10月5日  
スタート！

1

### インターネット予約が 携帯電話からもできます

ご好評いただいているインターネット予約が、  
携帯電話からもご利用いただけます。  
i-mode,Ezweb,Yahoo!ケータイなど、  
主な機種に対応しています。

※既にインターネットサービスをご利用いただいている方は、  
これまでのパスワードをそのままお使いいただけます。

2

### 自動音声応答サービスを開始

パソコンをお持ちでない方も、  
ご自分の貸出状況や予約状況を電話で  
夜間・休館日もお問い合わせいただけます。  
(自動音声応答でご案内します。)

☎(075)821-3010

※このサービスをご  
利用いただくには、  
パスワードが必要  
です。パスワードは  
インターネットサ  
ービスと共にす  
。(ただし、数字4桁のみ)



3

### 貸出延長手続きが簡単に

図書館の図書は期限内にお返しください。  
でも、どうしても期限内に返しにいけない、  
期限内に読みきれなかった…。

そんな時、

自動音声応答サービス・インターネットサービスから、  
お借りいただいている図書の貸出延長が  
できます。

(通常のお電話では延長できません)

※期限が過ぎている本がある場合や、  
他の方の予約がある場合、  
また、視聴覚資料については  
延長できませんので、  
ご注意ください。

4

### ホームページもリニューアル

京都市図書館ホームページも一新！

もりだくさんな情報を、  
よりわかりやすくお届けします。  
外国語(英語・中国語・ハングル)の案内も掲載。  
視覚に障害のある方のために  
「音声読み上げ」にも対応しています。

各館のホームページも、  
リニューアルしました。  
<http://www.kyotocitylib.jp/>





## 旅と読書

旅先で読んだ思い出の本、読書がきっかけになった旅、あなたのとっておきのエピソードを教えてください。

●南区 細見 展子さん（主婦）

私は、旅をするときには読みかけの本を持っていきます。飛行機や列車、フェリーの中などでそつとお気に入りのミステリーのページを開きます。いつの間にか物語の世界に入り込んでしまって、ふと気がついて本を閉じると旅の途中。非日常の見知らぬ光景が目の前にあります。ミラノに向かう機内で読んだ『煙突掃除の少年』（バーバラ・ヴィアン著）。娘の住む岡山への列車の中での『赤ちゃんとさがせ』（青井夏海著）。後にタイトルを目にしただけでそれらの旅が懐かしくよみがえるのです。

●西京区 廣瀬 由仁子さん（主婦）

旅のドキドキ感や発見、人との出会いやキュンとする思い出の数々。子どもたちに、絵本を通じて旅の魅力を知つてほしくて選んだのが『まぼうの夏』（作藤原一枝・はたこうしろう 絵はたこうしろう）。兄弟が田舎のおじさんの家で過ごす夏の日々が爽やかに描かれている作品です。夏の日差し、海や山での遊び、そしてホームシック。日常から非日常へ、そして再び日常へ。旅の醍醐味をたっぷり堪能させてくれる物語は、大人には優しく、子どもたちには初めての旅への憧れを抱かせてくれます。

●伏見区 宮澤 純里さん（主婦）

本を読んでいると、その舞台となつた場所を訪れたいと思うことがよくある。高校時代、田辺聖子さんの『春はあけぼの』を読み、古典文学と平安時代の京都に憧れた。隣県に住んでいた私は、京都は二時間以内の小旅行で行ける魅力の異空間だった。町を歩いていると千年前の物語に登場したそのままの町名や通り名に出くわし、わくわくしたものだ。

大学時代を経て、憧れの旅先は、今は私の生活の場となつた。これも本が結んでくれた縁かと思う。

**京図ものがたり vol.16**

発行  
平成19年10月

編集・発行  
(財)京都市生涯学習振興財団・京都市中央図書館  
〒604-8401 京都市中京区聚楽廻松下町9-2  
TEL 075-802-3133  
<http://www.kyotocitylib.jp/>  
<http://www.kyotocitylib.jp/>

## 子どもを共に育む 京都市民憲章



社会のあらゆる場で実践し、行動の輪を広げましょう！

●伏見区 三島 洋さん（無職）

私の読書は健康維持のためです。就寝前に1時間の読書をすることです。毎夜10になるとよほどのことがない限り寝室に入り、読書をはじめます。睡魔と闘いながら、とにかく11時までは頑張り抜き、11時には即消灯し眠りの世界へと旅立ちます。かくして、いつもスムーズに安眠と健康を手に入れています。したがって、旅行には読み物が欠かせません。お薦めの本は、居ながらにして世界の旅ができる『世界文化遺産本』が最適です。

●伏見区 宮部 末子さん（主婦）

大学時代、日本文学講読演習の発表で菊池寛の『恩讐の彼方に』を取り上げた。菊池文学は幹に枝葉をつける哲學的なオブラートの中に「人間あり」を見出す。高松市の菊池寛記念館や、大分県中津耶馬渓の青の洞門・羅漢寺・耶馬トビア・耶馬渓風物館へ出かけて書庫の内部も拝見し、思いがけない資料収集は論文にもなった。『恩讐の彼方に』の出典は幾つかあり研究課題を持つて足を運べば奥が深い。行く度にお世話になる禅海堂の比丘尼さんに頂いた水晶玉のホルダーは宝物です。

ふと手にした本の扉を開けたときから別世界へと誘われる、あたかもそれはその人にとつての旅の始まり、本を読むこと自体が旅です。読み終えたときに、出会えた幸せに浸れる一冊に巡り合えたときの至福感は、充実した旅を終えた喜びにも似ているかもしれません。

今回の特集は行楽の秋にちなんで、「旅と読書」をテーマに、旅に役立つ各種の本を集めてみました。これらの本を手がかりに旅を計画するもよし、本の世界で旅をした気分を味わうこともできそうです。まずは図書館の本棚の本を手にとつて、扉を開けて旅立つてみてください。

### 「本の世界を旅する」